

# 広島大学学術情報リポジトリ

## Hiroshima University Institutional Repository

Title	授業研究を軸にした教師教育に関する国際共同研究のプラットフォームづくり (3)
Author(s)	金, 鍾成; 吉田, 成章; 岩田, 昌太郎; 川口, 広美
Citation	広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書, 21 : 47 - 54
Issue Date	2023-03-17
DOI	
Self DOI	<a href="https://doi.org/10.15027/53598">10.15027/53598</a>
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00053598">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00053598</a>
Right	
Relation	



# 授業研究を軸にした教師教育に関する国際共同研究の

## プラットフォームづくり（3）

研究代表者 金 鍾成（社会系コース）  
研究分担者 吉田 成章（教育学系コース）  
岩田昌太郎（健康スポーツ系コース）  
川口 広美（社会系コース）

### I 研究の目的と背景<sup>1)</sup>

#### 1. 研究の目的

本プロジェクトは、広島大学教育学部が2019年度から加盟している International Network of Educational Institutes (INEI) と連携し、教師教育の文脈で授業研究が議論できる国際共同研究のプラットフォームの構築を目指す。令和2年度から令和4年度まで実施される本プロジェクトの具体的な目標は、①令和4年以後に広島大学で開催される INEI 総会で「授業研究を軸にした教師教育」の在り方を海外の研究者らとともに提案すること、②交流の成果を踏まえて『Lesson Study in Teacher Education』という題目の国際共著の書籍を出版することである。究極的には、「日本の授業研究と海外の Lesson Study をつなげる窓口としての広島大学」のイメージを国内外に広げ、広島大学教育学部が授業研究の国際交流のハブとしての役割を果たすことをめざす。授業研究の成果を長年蓄積しており、国際的ネットワークを有する広島大学の「強み」を活かしながら、スーパー・グローバル大学としての広島大学の使命をも果たしていきたい。

（金 鍾成\*・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美）

#### 2. 研究の背景

TIMSS 調査後の1990年代から PISA ショックを経た2000年代にかけて、日本の授業研究に対する国際的な関心が高まった。2020年までに出版された授業研究に関する書籍・論文が900本を超えるなど（Yoshida, Matsuda, & Miyamoto, 2021）、日本の授業研究は Lesson Study に翻訳され多くの国々に広がっている。しかし、Kim (2021) が指摘するように、日本の授業研究と世界の Lesson Study は同義ではない。日本の授業研究は教員養成・教員研修、授業に関する現象学的研究、カリキュラム研究の側面をも有するが（National Association for the Study of Educational Methods, 2011）、海外の授業研究は教員養成・教員研修の側面に焦点を当てながら各々の文脈に合う形で発展を遂げているのである。このような日本の授業研究と世界の Lesson Study が編み出す多様性は、両者が学び合う必要性を提起する。そこで、本プロジェクトは、両者が共通に関心を寄せる教師教育に着目し、日本の授業研究と海外の Lesson Study が交流できる場、すなわち、国際共同研究のプラットフォームの構築を目指す。

（吉田成章\*・金 鍾成・岩田昌太郎・川口広美）

## II プラットフォームづくりの方法

### 1. セミナーによるプラットフォームづくり

令和4年度においても、令和2年度と3年度に続いて授業研究に関するセミナーを継続的に行うことで、「日本の授業研究の発信と世界の「Lesson Study」との交差点を探りながら、授業研究に基づく教師教育について研究できる国際共同研究プラットフォームの構築」（金鍾成・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美，2021，p.34）を目指した。令和4年度には、教師教育に積極的に授業研究を導入しているイギリスとオランダの授業研究の研究者とのネットワーク構築に取り組んだ。広島大学教育ヴィジョン研究センター（Educational Vision Research Institute, EVRI）の支援のもとで行われた『授業研究を研究する』シリーズの詳細は以下の通りである。なお、令和2年度から令和4年度まで開催されたすべてのセミナーの詳細および報告はEVRIのホームページ（<https://evri.hiroshima-u.ac.jp/>）と、「授業研究を軸にした教師教育に関する国際共同研究のプラットフォームづくり」の特設サイト（<https://sites.google.com/view/feb-seminar-hp-prototype/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>）より閲覧することができる。

#### 【令和2年度のセミナー一覧】

- 第1回：「日本の授業研究を軸にした教師教育の現状と課題」  
（開催報告：<https://evri.hiroshima-u.ac.jp/13361>）
- 第2回：「国際教育開発の視点からみた授業研究を軸にした教師教育の展望」  
（開催報告：<https://evri.hiroshima-u.ac.jp/13969>）
- 第3回：「学校内外の授業研究を語る」  
（開催報告：<https://evri.hiroshima-u.ac.jp/14609>）
- 第4回：『「Lesson Study-based Teacher Education」』の編著者との対話  
（開催報告：<https://evri.hiroshima-u.ac.jp/14901>）
- 第5回：「新しい授業モデルへの転換に教員養成はどのように応えるのか？」  
（開催報告：<https://evri.hiroshima-u.ac.jp/14908>）
- 第6回：「異職種協働の視点からみた授業研究を軸にした教師教育の展望」  
（開催報告：<https://evri.hiroshima-u.ac.jp/16120>）

#### 【令和3年度のセミナー一覧】

- 第7回：「ドイツにおける授業研究と教師教育」  
（開催報告：<https://evri.hiroshima-u.ac.jp/17809>）
- 第8回：「日本の教師教育者は授業研究にどのように関わっているか」  
（開催報告：<https://evri.hiroshima-u.ac.jp/20513>）
- 第9回：「異なる専門の研究者が共通フィールド（場）にどのように関わるか」  
（開催報告：<https://evri.hiroshima-u.ac.jp/21515>）
- 第10回：「イギリスの授業研究の研究者から学ぶ—Wasył Cajkler 先生—」  
（開催報告：<https://evri.hiroshima-u.ac.jp/22182>）
- 第11回：「オーストリアの授業研究の研究者から学ぶ—Claudia Mewald 先生—」  
（開催報告：<https://evri.hiroshima-u.ac.jp/21725>）

- 第12回：「韓国の授業研究・授業批評の研究者から学ぶ—HyugKyu Lee 先生—」  
（開催報告：<https://evri.hiroshima-u.ac.jp/22145>）

【令和4年度のセミナー一覧】

- 第13回：「オランダの授業研究の研究者から学ぶ（1）—Sui Lin Goei 先生—」  
（開催報告：<https://evri.hiroshima-u.ac.jp/24559>）
- ・日にち：2022年11月12日（土）16:00-18:00
  - ・司会：金 鍾成（広島大学）
  - ・話題提供者：Sui Lin Goei 先生（Hogeschool Windesheim・Vrije Universiteit Amsterdam）  
「インクルーシブ教育のための授業研究」
  - ・指定討論者：川口広美（広島大学）
- 第14回：「オランダ・イギリスの授業研究の研究者から学ぶ（2）—Sarah Seleznyov 先生—」  
（開催報告：<https://evri.hiroshima-u.ac.jp/24668>）
- ・日にち：2022年12月16日（金）18:00-20:00
  - ・司会：金 鍾成（広島大学）
  - ・話題提供者：Sarah Seleznyo 先生（Big Education Trust）  
「国際的政策の借用と日本の授業研究」
  - ・指定討論者：吉田成章・宮本勇一（広島大学）
- 第15回：「オランダの体育授業研究の教育者から学ぶ（3）—安井隆先生—」  
（開催報告：<https://evri.hiroshima-u.ac.jp/25210>）
- ・日にち：2023年2月12日（日）13:00-14:30
  - ・司会：岩田昌太郎（広島大学）
  - ・話題提供者：安井隆先生（OBS Overvecht）  
「オランダ小学校の授業研究：日蘭の比較から見る今後の教師教育」
  - ・指定討論者：川口広美（広島大学）

## 2. 授業研究における教師教育者の役割に関する研究成果の発表・研究交流

令和3年度に続き、令和4年度も授業研究における教師教育者の役割に関する共同研究を行い、その成果を国際学会で発表することで類似の関心を持つ教師教育者と研究交流を行う場を設けた。具体的には、2022年9月に開催された World Association of Lesson Studies (WALS) の年次大会において、金・吉田・岩田・川口の4人が「Doing Lesson Study about Lesson Study: Four Teacher Educators' Collaboration to Improve the Performance of Knowledgeable Others in a Japanese In-service Lesson Study」という題目で研究成果を発表した。授業研究における教師教育者の関わりを教師教育の「授業」として捉え、共同研究のメンバーの一人である岩田の「授業」を金・吉田・川口が批判的同僚として共に省察した。上記の共同省察、すなわち「授業研究を授業研究する」プロセスのなかで得られた教師教育者としての学びをまとめ、世界の授業研究の研究者にその成果を共有した。

### 3. 海外の授業研究との交流によるプラットフォームづくり

広島大学の豊富な授業研究に関する知識と経験が海外の斬新な授業研究の捉え方と出会う機会を設け、日本と海外の授業研究の実践者・研究者が互いに自らの授業研究を相対化することのできる授業研究を共に研究するプラットフォームづくりを試みた。令和4年度は、2000年前後に授業研究を導入し、今はヨーロッパにおける授業研究をリードしているオランダに注目し、現地の授業研究の実践者・研究者との交流を深めた。第13回のセミナーで招請した Vrije Universiteit Amsterdam の Sui Lin Goei 先生の紹介で、オランダの8つの大学で構成されている授業研究コンソーシアムの実践者・研究者と以下の研究交流を行うことができた。

#### ○Hogeschool Inholland の授業研究グループとの交流

- ・時期：2023年1月17日
- ・交流内容：Hogeschool Inholland では、卒業論文を書くことで卒業資格が得られる。卒業論文は主に実践ベースの研究が行われる傾向にあるが、授業研究もその一つのアプローチとして認められている。今回の交流では、授業研究で卒業論文を書くプログラムをリードしている Madeleine Vreeburg 先生の案内で、de Sleutelbloem Beverwijk で行われた教員志望学生の授業研究の様子とその成果を卒業論文としてまとめるプロセスを観察した。なお、観察後の懇談会では、日本とオランダの授業研究の共通点と相違点について話し合う時間も設けられ、互いの授業研究から何を学ぶことができるかについての議論を行った。

#### ○ROC Twente の授業研究グループとの交流

- ・時期：2023年1月18日
- ・交流内容：Hogeschool Inholland と同様に、ROC Twente でも授業研究で卒業論文を書くプログラムを導入することが予定されている。そのプログラムをリードしている Andre de Swart 先生は、日本の教員養成ではどのように授業研究が用いられているかについて興味を持っていた。交流会では、日本とオランダの教員養成段階における授業研究の共通点と相違点について話し合い、どのように授業研究をオランダの教師教育プログラムのなかに位置付けることができるかについての議論を行った。

#### ○Utrecht University の授業研究グループとの交流

- ・時期：2023年1月19日
- ・交流内容：Utrecht University では、理科の相対性理論をわかりやすく教えることを目指して開発された電子ツールを軸に授業研究を行っていた。そのプロジェクトを担当している大学院生との交流を通して、授業研究を研究方法として用いている様子を確認することができた。また、当大学の Wouter van Joolingen 先生の招聘で、金が「Localizing Lesson Study: Referring *Jugyou Kenkyuu*, Reflecting on Context, and Creating Lesson Study

Culture」というタイトルの講演を行った。日本の教師教育においてどのように授業研究が活用されているか、またそれを支える制度的・文化的要因とは何かについて学んだオランダの授業研究の研究者は、日本の事例を「鏡」として、オランダの授業研究を洗練するための方略についての議論を行った。

#### ○University of Groningen の授業研究グループとの交流

- ・ 時期：2023年1月20日
- ・ 交流内容：University of Groningen は、オランダのなかでも最も熱心に授業研究のローカライゼーションに取り組んでいる大学である。卒業のために授業研究を通した卒業論文を必修としている当大学では、Siebrich de Vries 先生を中心に複数の授業研究プログラムが立ち上がっている。Utrecht University と同様に、University of Groningen でも Siebrich de Vries 先生の招聘で、金が「Localizing Lesson Study: Referring *Jugyou Kenkyuu*, Reflecting on Context, and Creating Lesson Study Culture」というタイトルの講演を行った。University of Groningen では、オランダにおける授業研究のローカライゼーションの方略だけではなく、日本とオランダの授業研究の理論と実践の共通点と違いについても議論した。また、オランダでは珍しい事例ではあるが、学校全体が教員研修の一環として授業研究を行っている Winkler Prins School Veendam を訪問し、学校を基盤とした授業研究の様子とそれに参加している管理職や教員と授業研究に関する意見交流を行った。

### Ⅲ プラットフォーム形成の実際

#### 1. セミナーによるプラットフォームづくり

2022年11月12日（土）に開催された「オランダの授業研究の研究者から学ぶ（1）— Sui Lin Goei 先生—」では、42名が集まり、特別支援教育における授業研究の在り方や日本の授業研究とオランダの Lesson Study を比較・検討した。2021年12月16日（金）に開催された「オランダ・イギリスの授業研究の研究者から学ぶ（2）— Sarah Seleznyov 先生—」では、27名が参加し、日本の授業研究の世界的なインパクトと各地の文化に根差した教育的借用の在り方について議論した。2023年2月12日（日）に開催された「オランダの体育授業研究の実践者から学ぶ（3）— 安井隆先生—」では、27名が集まり、安井先生のオランダ小学校での授業研究実践を事例に、日本とオランダの比較から見えてくる今後の教師教育について議論した。

上記のセミナーを開催することで得られた成果は、主に三つである。一つは、日本の授業研究と海外（特に、オランダ）の Lesson Study を比較・検討することで、両者の違いが生じる文脈を検討し、互いが何を学べるかを検討する機会を提供したことである。二つは、海外の Lesson Study が教科教育以外の教育のテーマ（特別支援教育など）と関連付けられることで、その活用可能性がより広がり、さらにそこから生まれた授業研究の新たな展開

が日本の授業研究に示唆を与える可能性を検討したことである。最後は、これまで構築してきた日本の「ナカとソト」の授業研究の研究者が、互いの考えを交えるプラットフォームをより拡張できたことが大きな成果となった。

(金 鍾成\*・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美)

## 2. 授業研究に関する国際シンポジウムの開催

2022年9月に開催されたWALSの年次大会で金・吉田・岩田・川口の4人が行った発表「Doing Lesson Study about Lesson Study: Four Teacher Educators' Collaboration to Improve the Performance of Knowledgeable Others in a Japanese In-service Lesson Study」では、23名の世界の授業研究者が集まり、授業研究における knowledgeable others (知識ある他者) の役割とその専門性開発の方略について議論した。

上記の発表とその後の質疑応答から得られた成果は、主に二つである。一つは、授業研究における knowledgeable others の存在の重要性が共有されたことである。授業研究を行うなかで、授業を一緒に見てそれについて話し合うことはできても、授業協議会の議論の質を向上させるためには何をどのようにしたら良いかわからないと語る研究者が多かった。日本では、大学の研究者、優れた授業を行ってきた実践者、指導主事などが学校の授業研究に指導助言者として入り、授業研究を支援する。発表の参加者は、今回の発表で共有された日本の knowledgeable others の役割について学ぶことで、ある学校の教員の内側からはなかなか生まれない視点を提供してもらうことの重要性、また、その新しい視点を生かして授業協議会の議論の質を向上させる可能性を発見したと語った。もう一つの成果は、授業協議会の議論の質をさらに向上させるためには、 knowledgeable others の専門性も重要であり、 knowledgeable others は自らの授業研究への介入を絶えず省察する必要性が共有されたことである。教師教育者である knowledgeable others、どのようにより良い教師教育者になるかを誰かに教えてもらうことはできない (Swennen & White, 2021)。類似の悩みを抱く教師教育者同士が互いの実践を省察しあうこと、すなわち今回の発表で示した knowledgeable others の授業研究への関わり方に対する共同省察 (=「授業研究を授業研究する」) は knowledgeable others の専門性開発の一つの方略としてその有効性が認められた。

(金 鍾成\*・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美)

## 3. 海外の授業研究との交流によるプラットフォームづくり

Amsterdam を中心として活動されている Sui Lin Goei 先生と Madeleine Vreeburg 先生、Utrecht を中心として活動されている Wouter van Joolingen 先生、Groningen を中心として活動されている Siebrich de Vries 先生は、オランダの授業研究の導入と展開をリードしてきた人物である。今回、上記の4名の研究者と交流ができたことは今後日蘭の授業研究交流を維持・発展させる原動力になると考えられる。次回の訪問では、今回の渡航では会えることができなかったオランダ南部の授業研究の研究者と交流する予定である。

今回の交流の成果は、日本とオランダの授業研究の共通点と相違点を発見できたことと、またそれ裏にある社会的・文化的背景を探究したことである。オランダの授業研究は、オクスフォード大学の Peter Dudley (2014) が提唱した子どもの学びに着目した授業研究から影響を受けている。よって、オランダの授業研究も、授業観察の際に何人かのサンプル児

童・生徒を決めて彼らの学びを深く観察し、そのプロセスから得られたデータを踏まえて授業改善に取り組むことを特徴とする。子どもの学びを科学的に探究する知的作業は、アクションリサーチなど授業の成果を科学的に探究するオランダの研究文化と馴染み良いものであったため、国内に浸透しやすかったと考えられる。一方、日本の授業研究は、子どもの学びも読み取るが、同時に教師の授業にも同じく目を配る。教師が計画した授業の目標・内容・方法・評価のアプローチはもちろん、それが実際の授業においてどのような発問や行動、子どもの答えに対する反応として出てくるかを綿密に観察する。授業を計画する段階を大切にす文化、またその文化を支える教科教育学などの学問的伝統は、子どもだけではなく、教師にも目を配る日本の授業研究を支えていると考えられる。この発見は、オランダの授業研究は教師の授業そのものを考慮しながら授業を改善する必要性、日本では子どもの学びをより深く理解し授業を改善する必要性を呼びかける。

上記の発見はまだ日本とオランダの研究者が検討中のものである。検討を重ねることで得られた成果は、授業研究、比較研究、教師教育を扱う英文雑誌に投稿する予定である。

(金 鍾成\*・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美)

#### IV 研究の成果と今後の課題

今年度の主な研究成果は主に二つである。一つは、令和2年度から続くオンラインセミナーを通して、空間的制約を乗り越えた授業研究を軸にした教師教育に関する国際共同研究のプラットフォームづくりを継続したことである。もう一つは、学会が対面で開かれたことや、日本の研究者が海外に渡航することが可能になったことで、オンラインとは異なるオフラインならではの国際交流による学術ネットワークの拡張ができたことである。これらのオンライン・オフラインでの国際交流によるプラットフォームの拡張は、国際共同研究のシーズにもなりつつある。

今後の課題は、これまで構築できたオン・オフラインのプラットフォームの内実化および効果的な運用・拡張である。まずは、オンラインセミナーを継続的に開き、日本の授業研究と海外の Lesson Study が出会う場として広島大学教育学部を世界の授業研究の研究者に認知してもらいたい。また、海外の Lesson Study の研究者を広島に招き、日本の授業研究について学び、各自の文脈におけるローカライゼーションの方略について考察することができる「授業研究のスタディツアー」を計画したい。そうすることで日本の授業研究を海外に発信し、また海外の Lesson Study から日本の授業研究を捉えなおす授業研究と Lesson Study の最前線として広島大学教育学部を位置付けていきたい。最後に、プラットフォームづくりにとどまらず、プラットフォームを生かした国際共同研究にも取り組みたい。現在、WALS の学会誌 (SSCI) の特集号の作業が進んでおり、また日本とオランダの研究者が両国の授業研究について比較研究に取り組んでいる。今後は国際共同研究についてアイデアを共有し一緒に研究できるパートナーを探す場も提供していきたい。

(金 鍾成\*・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美)

#### 注

- 1) 本プロジェクトは、令和2年度から令和4年度にかけて、同一の研究目的と背景のもとで行われたものであることを記しておきたい。



## 引用文献

- Kim, J. (2021). Through foreign eyes: A critical understanding of Lesson Study-based teacher education in Japan. In J. Kim, N. Yoshida, S. Iwata, & H. Kawaguchi (Eds.), *Lesson study-based teacher education: The potential of the Japanese approach in global settings* (pp. 9-28). New York, NY: Routledge.
- Kim, J., Yoshida, N., Iwata, S., & Kawaguchi, H. (Eds.). (2021). *Lesson study-based teacher education: The potential of the Japanese approach in global settings*. New York, NY: Routledge.
- National Association for the Study of Educational Methods (Ed.). (2011). *Lesson study in Japan. Hiroshima*, Japan: Keisuisha.
- Peter, D. (2014). Lesson study: A handbook. (最終観覧日 : <https://lessonstudy.co.uk/wp-content/uploads/2012/03/new-handbook-revisedMay14.pdf>)
- Swennen, A., & White, E. (2021). *Being a teacher educator: Research-informed methods for improving practice*. London: Routledge.
- Yoshida, N., Matsuda, M. & Miyamoto, Y. (2021). The landscape of lesson study. A methodology for teachers' professional development and educational research. In J. Kim, N. Yoshida, S. Iwata, & H. Kawaguchi (Eds.), *Lesson study-based teacher education: The potential of the Japanese approach in global settings* (pp. 29-50). New York, NY: Routledge.